

研修報告書No.10

県外大学病院研修医

埼玉県出身で、幼少期から埼玉と東京で育ってきました。私の大学では、地域医療研修を、北海道、秋田、栃木や沖縄から選択できますが、高知県の幡多というところはなかなか自分で訪れるチャンスがないと思ったから研修先を選びました。

高知市内には何度か観光に行ったことはありましたが、清水や宿毛などの幡多地域にいったのは今回が初めてでした。まず驚くのは、日が暮れてからの道の暗さやお店の閉まる時刻の早さでした。また、高齢化していることは、地域を散歩や運転しているだけでも感じることができました。

研修を行ったどちらの病院でも 1 人の医師が見る症例の範囲が広いと感じました。自分の専門の範囲だけでなく、外傷や内科・外科疾患、耳鼻科や皮膚科など科を分けることなく初期診療に当たっていました。私の大学では、皮膚の病気なら皮膚科など、すぐに専門科に振り分けるので地域医療研修では多くの疾患を見ることができてとても勉強になりました。経過のフォローも頻回に自分で行えたため、自分の行った医療に対するフィードバックも自分の目で確かめることができました。漁師など一次産業を担っている人が多いせいか、軽症の外傷をたくさん見た印象があります。

研修内容としては、地域を知るためのレクリエーションもあり、その土地を知ることができました。また、上級医の先生方は非常に教育熱心であり、患者さんも協力的でした。この時期には多くの研修医が将来何科になるのかを決めていると思います。普段の大学での診療ではついつい診る疾患が偏りますが、多くの疾患をまんべんなく診察できたので非常に勉強になりました。

診療所での研修も、地域医療の大切さを感じました。その土地に唯一の診療所であり、駆け込み寺のような診療所は人口の減少とともに徐々に少なくなりつつあります。その土地に住む人がいる限り、なるべくそういった医療施設を保っていけるような地域ぐるみの行動が大切だと思いました。

また、幡多地域で行われていた病院をまたがったカルテの共有は、プライバシーの問題など様々な問題はあると思うが、患者の情報共有ができる点で有用だと思いました。救急領域では患者の意識がないことも多く、患者の情報を共有してあるだけでいち早く治療につなげられると思います。

高齢化社会は日本、世界で今後もどんどん進行していくと考えられますが、地域に根付き、目の前の患者を救う医師や看護師、医療スタッフが今後さらに重要となっていくと感じました。